

第4回奈良県文化振興戦略懇話会開催概要

- 1 開催日時：令和4年1月12日（水）15：30～17：00
- 2 会場：奈良県文化会館 集会室A B
- 3 テーマ：
 - ①文化における『言語』の役割をどう考え、異文化の理解を深めるためにはどのようにアプローチすればよいのか
 - ②奈良公園で、「なぜが芽生え、知るを楽しむ」方法について
- 4 出席者：上野委員、千田委員、藪内委員、荒井知事
- 5 議事概要
懇話会は非公開で開催。
委員からの主な意見は以下とおり。

【主な意見】

- ・ 文化の理解は流動的であり、言葉が分かれば理解が進む。
- ・ カードという言葉一つでもカルテ、カルタなどさまざまな国から取り入れていたり、大和という地名から日本の国号まで説明することができたり、言葉そのものが文化を背負っていると言える。
- ・ 奈良は言葉の出発点として大きな役割を果たした。そのようなことを学べる場ができるとうい。
- ・ 歴史を伝えるのに、「なぜ」（なぜここにあるのか）という視点を使うのはどうかと考えている。
- ・ 文化財の今日的意味を説明する必要がある。奈良公園の本質的な意味を説明する奥深い案内書もつくることにチャレンジしたい。
- ・ 奈良公園ほど歴史を表現している公園はない。このことをもっと説明すべき。
- ・ 案内書には古代だけでなく、近代のことも紹介してはどうか。近代の文豪が多く訪れていることも特徴。
- ・ 案内書には、ハッとさせられる話、聞いてよかった話を載せていくとうい。
- ・ 教科書とリンクできる、教科書にアクセスできる知識をインプットできれば、若い人にもつながっていくのではないかと思う。
- ・ 奈良公園周辺の空中写真をみると、平城宮跡とのつながりがわかりやすい。これを子どもたちに伝えられたらよい。
- ・ 奈良由来のものが全国に広がっている。各地の奈良に関連するものを発信してはどうか。

以上